

第5 公営企業の業務の状況

1 電 気 事 業

(1) 平成26年度予算及び経営状況

年間総販売電力量を1億8,000万キロワットアワーと見込み、これを基礎に収益的収支の予算を編成しています。地方公営企業会計基準の見直しに伴い、減損会計が導入されたこと等により、その予定額は、電気事業収益17億3,544万9千円、電気事業費用15億8,983万4千円を見込んでいます。

また、資本的収支については、資本的収入16億2,168万円、資本的支出4億5,453万8千円を計上し、資源の有効利用と販売電力量の増加を図るため、中小水力発電開発事業として平瀬発電所の建設事業を継続実施します。併せて、既存施設の未利用落差を利用した小水力発電開発のモデルとして、宇部丸山発電所の建設に取り組みます。

なお、水力発電の経営は、気象条件に左右されますので、貯留水の効率的運用を図ることはもちろん、気象状況の早期把握、関係機関との密接な連携などを図り、販売電力量の確保による収入の増加と経費の効率的執行により経営の安定化に努めます。

本年度の業務予定量並びに収益的収支及び資本的収支の予定額は、次の表のとおりです。

第11表 平成26年度電気事業の業務予定量と前年度との比較

区 分	平 成 2 6 年 度 (A)	平 成 2 5 年 度 (B)	増 減 (A)－(B)
年 間 総 販 売 電 力 量	179,910 MWH	179,910 MWH	0 MWH

第12表 平成26年度電気事業会計予算の前年度との比較

(単位 千円、%)

区 分	平成 26 年 度 当初予算額(A)	平成 25 年 度 当初予算額(B)	比 較 (A)－(B)	(A)／(B)
収 益 的 収 入				
電 気 事 業 収 益	1,735,449	1,450,916	284,533	119.6
営 業 収 益	1,680,915	1,433,905	247,010	117.2
附 帯 事 業 収 益	12,045	8,711	3,334	138.3
財 務 収 益	2,496	2,737	△ 241	91.2
事 業 外 収 益	15,730	5,560	10,170	282.9
特 別 利 益	24,263	3	24,260	808,766.7
収 益 的 支 出				
電 気 事 業 費 用	1,589,834	1,307,070	282,764	121.6
営 業 費 用	1,432,120	1,241,873	190,247	115.3
附 帯 事 業 費 用	8,852	6,822	2,030	129.8
財 務 費 用	41,632	50,059	△ 8,427	83.2
事 業 外 費 用	80,303	5,313	74,990	1,511.4
特 別 損 失	23,927	3	23,924	797,566.7
予 備 費	3,000	3,000	0	100.0
資 本 的 収 入				
資 本 的 収 入	1,621,680	15,715	1,605,965	10,319.3
資 本 剰 余 金	917	598	319	153.3
固 定 資 産 収 入	1,600,001	1	1,600,000	160,000, 100.0
雑 収 入	20,762	15,116	5,646	137.4
資 本 的 支 出				
資 本 的 支 出	454,538	2,554,973	△ 2,100,435	17.8
建 設 費	140,000	284,500	△ 144,500	49.2
改 良 費	127,103	461,178	△ 334,075	27.6
投 資	1	1	0	100.0
償 還 金	184,334	206,194	△ 21,860	89.4
長 期 貸 付 金	0	1,600,000	△ 1,600,000	—
補 助 金 返 還 金	100	100	0	100.0
予 備 費	3,000	3,000	0	100.0

(2) 平成25年度下半期の業務の概要

平成25年度は、年間を通じた降雨量は、県下主要ダム地点で平年の112%となり、平成25年度の販売電力量は目標に対して92.5%、電力料金収入は目標に対して98.5%となりました。

また、最終の3月補正では、収益的収入予算においては、電力料金収入の増などにより1億3,412万円の増額補正を、収益的支出予算においては、物件費の増などにより1億9,237万5千円の増額補正を、それぞれ行いました。

この結果、最終予算は、収益的収入において15億8,503万6千円、収益的支出において14億8,588万8千円、資本的収入において837万7千円、資本的支出において22億5,963万3千円となりました。

なお、中小水力発電開発事業として平瀬発電所の建設事業を継続実施するとともに、既存施設の未利用落差を利用した小水力発電開発のモデルとして、相原発電所の建設に取り組みました。

第13表 企業債及び一時借入金の状況(電気事業)

(平成26年3月31日)					(単位 千円)	
区 分	発 行 総 額	償 還 額		平 成 25 年 度 末 現 在 高		
		当年度償還額	償還額累計			
企 業 債	3,889,000	206,291	2,604,436	1,284,564		
錦 川 水 系 発 電 所	1,625,000	88,449	964,556	660,444		
佐 波 川 発 電 所	286,000	15,485	154,863	131,137		
木 屋 川 発 電 所	572,000	29,397	470,375	101,625		
新 阿 武 川 発 電 所	248,000	12,633	141,234	106,766		
生 見 川 発 電 所	44,000	3,593	44,000	0		
末 武 川 発 電 所	794,000	40,274	560,674	233,326		
小 瀬 川 発 電 所	320,000	16,460	268,734	51,266		
一 時 借 入 金	—	—	—	0		

2 工業用水道事業

(1) 平成26年度予算及び経営状況

年間総給水量5億7,900万 m^3 と見込み、これを基礎に収益的収支の予算を編成しています。地方公営企業会計基準の見直しに伴い、減損会計が導入されたこと等により、その予定額は、工業用水道事業収益244億8,722万6千円、工業用水道事業費用522億8,421万3千円を見込んでいます。

また、資本的収支については、資本的収入12億9,210万1千円、資本的支出41億6,728万円4千円を計上し、企業債18億8,644万円を償還するほか、工業用水の安定した供給に資するため、島田川工業用水道建設事業などを実施します。

さらに、需要の開拓をはじめ諸施策に引き続き取り組み、工業用水道事業の経営基盤強化に努めます。

本年度の業務予定量並びに収益的収支及び資本的収支の予定額は、次の表のとおりです。

第14表 平成26年度工業用水道事業の業務予定量と前年度との比較

区 分	平 成 2 6 年 度 (A)	平 成 2 5 年 度 (B)	増 減 (A)－(B)
年 間 総 給 水 量	578,652,750 m^3	581,893,950 m^3	$\triangle 3,241,200 \text{ m}^3$

第15表 平成26年度工業用水道事業会計予算の前年度との比較

(単位 千円、%)

区 分	平成26年度 当初予算額(A)	平成25年度 当初予算額(B)	比 較 (A)－(B)	(A)／(B)
収 益 的 収 入				
工業用水道事業収益	24,487,226	6,778,535	17,708,691	361.2
営業収益	6,377,609	6,770,832	△ 393,223	94.2
営業外収益	542,271	7,698	534,573	7,044.3
事業外収益	2	2	0	100.0
特別利益	17,567,344	3	17,567,341	585,578, 133.3
収 益 的 支 出				
工業用水道事業費用	52,284,213	5,784,602	46,499,611	903.9
営業費用	5,550,862	5,179,232	371,630	107.2
営業外費用	701,772	595,095	106,677	117.9
事業外費用	178	173	5	102.9
特別損失	46,021,401	102	46,021,299	45,119, 020.6
予備費	10,000	10,000	0	100.0
資 本 的 収 入				
資本的収入	1,292,101	1,552,903	△ 260,802	83.2
企業債	1,200,000	1,400,000	△ 200,000	85.7
資本剰余金	20,724	29,537	△ 8,813	70.2
固定資産収入	1	1	0	100.0
雑収入	71,376	123,365	△ 51,989	57.9
資 本 的 支 出				
資本的支出	4,167,284	4,633,410	△ 466,126	89.9
建設費	55,300	147,300	△ 92,000	37.5
改良費	2,215,543	2,422,124	△ 206,581	91.5
投資	1	1	0	100.0
償還金	1,886,440	2,053,985	△ 167,545	91.8
予備費	10,000	10,000	0	100.0

資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額28億7,518万3千円は、内部留保資金(損益勘定留保資金及び消費税資本的収支調整額)で補てんします。

(2) 平成25年度下半期の業務の概要

平成25年度は、降雨量が県下主要ダム地点で平年の108%となったものの、月ごとの降雨量の変動が大きかったため、年間を通じての実給水量は、契約水量に対し、71.1%(昨年度68.5%)となりました。

また、工業用水の安定した供給に資するため、改良事業として厚東川改築事業などを実施するとともに、需要の開拓、企業債残高の縮減などの経営基盤強化に取り組みました。

最終の3月補正では、収益的収入予算においては、営業収益の増加などにより455万円の増額補正を、収益的支出予算においては、営業費用の減少などにより2億7,000万円の減額補正を、それぞれ行いました。また、資本的収入予算においては、企業債の減などにより8億1,388万9千円の減額補正を、資本的支出予算においては、改良費の減などにより4億9,497万7千円の減額補正を、それぞれ行いました。

この結果、最終予算は、収益的収入において67億8,308万5千円、収益的支出において54億9,403万9千円、資本的収入において7億3,901万4千円、資本的支出において41億3,843万3千円となりました。

第16表 企業債及び一時借入金の状況(工業用水道事業)

(平成26年3月31日)					(単位 千円)
区 分	発 行 総 額	償 還 額		平 成 25 年 度 末 現 在 高	
		当年度償還額	償還額累計		
企 業 債	40,623,417	2,056,162	20,625,895	19,997,522	
小瀬川工業用水道	2,545,000	148,770	1,436,920	1,108,080	
向道・川上工業用水道	1,103,000	46,736	516,752	586,248	
周南工業用水道	9,319,000	330,946	2,336,295	6,982,705	
佐波川工業用水道	666,000	28,682	273,452	392,548	
厚東川工業用水道	6,557,000	279,119	2,791,388	3,765,612	
木屋川工業用水道	3,647,000	191,436	1,834,789	1,812,211	
生見川工業用水道	730,000	75,762	664,888	65,112	
富田夜市川工業用水道	1,352,000	41,749	408,026	943,974	
厚東川第2期工業用水道	1,783,000	76,002	764,455	1,018,545	
厚狭川工業用水道	2,797,000	151,709	1,625,056	1,171,944	
木屋川第2期工業用水道	2,675,000	226,808	2,398,144	276,856	
末武川工業用水道	1,521,000	154,416	1,311,621	209,379	
佐波川第2期工業用水道	1,036,000	109,315	901,242	134,758	
小瀬川第2期工業用水道	4,892,417	194,712	3,362,867	1,529,550	
一 時 借 入 金	—	—	—	0	